

2021（令和3）年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

1 法人の概要

(1) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神とし、キリスト教の理念に基づいて設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会はローマに本部を置く世界宣教を使命としているカトリック女子修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長 Sr マリー・デュ・ムスチェ・ド・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951 年（昭和 26 年）青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観に基づく全人教育の場の実現を目指しています。

(2) 学校法人の沿革

1951（昭和 26）年

学校法人海星女子学院設立認可

海星女子学院小学校・海星女子中学校・海星女子高等学校設置

1952（昭和 27）年

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園設置

1953（昭和 28）年

熊本聖母愛児幼稚園設置

1954（昭和 29）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール設置

1955（昭和 30）年

海星女子学院短期大学英語科設置

海星女子中学校・海星女子高等学校を海星女子学院中学校・海星女子学院高等学校に名称変更

1962（昭和 37）年

海星女子学院短期大学家政科設置

1964（昭和 39）年

海星女子学院短期大学を神戸海星女子学院短期大学に名称変更

福岡海星女子学院中学校・高等学校設置

（福岡）マリア幼稚園を法人統合

海星女子学院小学校・中学校・高等学校を神戸海星女子学院小学校・中学校・高等学校に名称変更

1965（昭和 40）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科設置

1966（昭和 41）年

神戸海星女子学院短期大学英語科廃止

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園を神戸海星女子学院マリア幼稚園に名称変更

1968（昭和 43）年

福岡海星女子学院附属小学校設置

1980（昭和 55）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール廃止

1984（昭和 59）年

福岡海星女子学院幼稚園・小学校・中学校・高等学校を法人分離

1998（平成 10）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科を英語英米文学科、フランス語フランス文学科に名称変更

熊本聖母愛児幼稚園を法人分離

2000（平成 12）年

神戸海星女子学院短期大学廃止

2004（平成 16）年

神戸海星女子学院大学文学部英語英米文学科、フランス語フランス文学科を国際英語メディア学科、心理こども学科に改組。

2008（平成 20）年

神戸海星女子学院大学文学部国際英語メディア学科、心理こども学科を現代人間学部英語キャリア学科、観光ホスピタリティ学科、心理こども学科に改編

2012（平成 24）年

観光ホスピタリティ学科を募集停止。

2014（平成 26）年

英語キャリア学科を英語観光学科に名称変更

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
神戸海星女子学院大学	昭和 40 年 1 月	現代人間学部 (英語観光学科) (心理こども学科)
神戸海星女子学院高等学校	昭和 26 年 3 月	全日制 (普通科)
神戸海星女子学院中学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院小学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和 27 年 1 月	—

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2021 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数
神戸海星女子学院大学	95	380	374
神戸海星女子学院高等学校	150	450	420
神戸海星女子学院中学校	150	450	430
神戸海星女子学院小学校	50	300	294
神戸海星女子学院マリア幼稚園	100	300	289

(5) 教職員の概要

(2021 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

区分		本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教 員	本務	0	20	25	23	20	20	108
	兼務	0	57	10	21	8	10	106
職 員	本務	6	15	3	2	1	3	30
	兼務	1	4	2	2	2	2	13

(6) 役員に関する事項

① 役員名簿

定員数 理事 8 名、監事 2 名

(2021 年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	森田 和子	常 勤	カトリックセンター長
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	澤井 育子	常 勤	幼稚園長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

【参考】(2022 年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	森田 和子	常 勤	カトリックセンター長
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	元山 一則	常 勤	幼稚園長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

② 責任限定契約の状況

私立学校法に従い、令和 2 年 4 月 1 日より責任限定契約を締結した。

・対象役員の氏名

非業務執行理事（村田博）、監事（荒井俊朗、西村繁秀）

・契約内容の概要

非業務執行理事及び監事はその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金 50 万円と、役員報酬の 2 年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。

③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

私立学校法に従い、理事会決議により令和 3 年 4 月 1 日から役員賠償責任保険に加入した。

・保険者

東京海上日動火災保険株式会社

・被保険者

記名法人 学校法人海星女子学院

個人被保険者 理事、監事、評議員

・補償内容

役員（個人被保険者）に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等

記名法人に関する補償 社内調査費用、第三者委員会設置・活動費用

・支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

・保険期間中総支払限度額

3 億円

（7）評議員の概要

定員数 17 名

（2021 年 5 月 1 日現在）

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	澤井 育子	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カリックセンター長	山田喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	村田 博	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
若林 洋子	小中高 事務長	芝山 豊	
石原 敬子	大学長		

【参考】(2022 年 5 月 1 日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カトリックセンター長	山田喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	村田 博	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
若林 洋子	小中高 事務長	芝山 豊	
石原 敬子	大学長		

2 事業の概要

(1) 神戸海星女子学院大学

1. 学生募集、広報活動

① 学生募集

2021 年度の入学者数は、英語観光学科 40（前年度 72）名、心理こども学科 41（同 37）名、合計 81（同 109）名、定員充足率は 84.2%（英語観光学科 86.7%、心理こども学科 82.0%）であった。COVID-19 感染拡大により計画通りに学生募集が行えなかったこと、観光業が打撃を受けたことが大きく影響した。入試日程では、年内に進学先を決定したいという受験生の意向が顕著に表れ、例年よりも年明け後に行われる一般入試における志願者の減少が著しい。具体的には、AO 型・推薦入試志願者数 77（前年度 83）に対し、一般入試志願者数 61（前年度 150）である。

② 広報活動

コロナ禍が続く中、4 月下旬から 6 月下旬、8 月下旬から 9 月末までの間緊急事態宣言対象地域となり、感染予防に配慮しながらの募集活動となった。

(ア) オープンキャンパス

事前予約制とし、1 回の予約人数も各学科 10 名（終日開催の日は午前・午後の二部制）を上限とすることで、短時間且つ少人数で実施した。また受付での検温及び手指消毒を徹底し、個別相談ブースには飛沫防止パネルを設置して対応した。日程としては全 16 日程実施したが、高校生の参加者は 193（前年度 186、前々年度 368）名、保護者等 107（同 135、262）名であり、高校生の集客がコロナ禍 1 年目とあまり変わらない数字となっている。

(イ) WEB 上での進学相談会

前年度に引き続き、オンラインシステムを活用し、高校生や保護者に対する情報提供、個別面談、在学生広報スタッフとの交流に活用した。

(ウ) 土曜進学相談会

春学期は基本的に Zoom を使った対応とした。秋学期は教員 1 名・職員 1 名を配置し、来校した高校生及び保護者に対面で対応した。また、オンラインでの相談の希望があれば Zoom で応じたりするなど、柔軟に対応した。

(エ) 高校訪問

感染拡大防止に配慮し、訪問校と相談をしながら慎重に行った。高校訪問のための入試アドバイザーを 1 名から 2 名に増員し、繰り返し訪問を行った。

(オ) 教員対象説明会

5 月中旬から下旬に 4 回計画していたが、緊急事態宣言発令と重なったため、学外開催のものは中止とし、学内開催日程の 2 回をリモートで行った。

(カ) 出張授業・進学相談会

合計 105 件（前年度 58 件）の出張授業及び進学相談会に参加した。

(キ) 『2022 大学探しランキングブック』

全国の進路指導教員対象のアンケート（大学通信調べ）により、以下の評価を受けた。

- ・小規模だが評価できる大学 近畿 第 2 位（全国女子大 第 6 位）
- ・教育力が高い大学 近畿女子大学 第 4 位
- ・面倒見が良い大学 近畿女子大学 第 2 位（近畿私立大学 第 9 位）
- ・2021 年 幼稚園教諭実就職率 近畿私立大学 第 7 位（近畿女子大 第 4 位）
- ・2021 年 保育士実就職率 全国女子大学 第 1 位

2. COVID-19 対策

緊急事態宣言発令時以外は原則として全面对面による授業を行った。その間、日常的な手指衛生・不織布マスク使用・登校前の体温記録・登校時の検温・ディスタンス・換気の徹底の他には、自宅使用及び学内使用のためのパソコンの貸与、黙食スペースの設置をし、昼休みにはアナウンス研究会による放送・教員による見回りにより注意喚起を行った。 コロナ禍 2 年目ということもあり、オンラインによるオンデマンド又は双方向の授業の実施、オンライン履修者を含むクラスにおける対面とオンラインのハイブリッド授業の実施への移行は大きな混乱もなく行うことができた。また大学祭については 2020 年度は完全オンラインでの実施、2021 年度は学生の発案と工夫によりハイブリッドで行い、制約のある中でも新しい形で行事を開催することができるという可能性を確認した。

3. 大学評価実地調査

2021 年 3 月末日に公益財団法人 大学基準協会に提出した「評価資料」（「点検・評価報告書」等）を基に、9 月 17 日・18 日にオンラインによる実地調査を受け、内部質保証を中心として様々な質疑及び意見交換がなされた。当日の面談参加者は、教員 12 名、職員 9 名、学生 8 名、理事長、法人職員 2 名である。評価委員からは、「超小人数の大学として学生一人ひとりを大切に育てており、学生もそれに応えてしっかりと成長していることが伺える」、「教職員は小人数にも関わらず、高い意識で大学運営に取り組んでいる」等という感想が聞かれた。実地調査の結果、2022 年 3 月に本学が大学基準に適合していると正式に認定された。認定期間は、2022 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日である。学生受け入れにおける是正勧告及び内部質保証システム等における改善課題に取り組んでいる。

4. 教育活動

① 英語観光学科

様々な取り組みにより PBL 型学修を実施した。観光ゼミでは、兵庫県神河町観光 PR 動画撮影・作成及び配信（神河町観光協会からの業務委託）、姫路市及び家島における観光調査、広島県竹原における古民家再生ビジネスの現状と観光客の意識調査、空港や観光地における障害者種別による利用者動線やユニバーサルデザインの取り組み調査などを行った。その他、社会と繋がることをテーマに、様々な媒体への作文投稿課題を課したり、グループ毎に海外旅行企画を行ったりした。また、TOEIC 指導強化の目的で、次年度のカリキュラム再編の準備を整えた。1・2 年次対象の Reading のクラスでは多読教材を用いて英語での読書に慣れる機会を設けることで、履修する全学生が、前学期の読書語数を上回ることができた。

2022 年 1 月には、学科全体のイベントとして“海星 English & Tourism Festival”を開催した。読書課題発表、オンライン留学報告、旅行プラン・地域活性化フィールドワーク報告、クラブ発表という内容で発表した。1・2 年次合同で実施を計画していた帝国ホテル大阪での「ホスピタリティ研修」は、2021 年度も中止せざるを得ず、2022 年度に延期し、新 1・2 年次のみ対象として実施する計画である。

② 心理こども学科

灘区子育て支援事業の一環として「海星子育てひろば」を開催した。「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成金」の交付をうけ、「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進・子育て等に関する相談、援助の実施・地域の子育て関連情報の提供・大学の子育てに関する専門的な知識を地域に役立ててもらおう場とする」ことを目的として活動している。2021 年度は 7 月以降に 5 回開催し、11 組の親子が参加した。参加定員を減らした上で広い教室を使用し、指導教員・参加学生・参加親子全員が体調管理表に体温を記録し、実施中も常に体調を確認、玩具などの備品を毎回消毒するなど、感染拡大防止に十分留意した。毎回の内容は、学生が季節に合わせた企画と準備を行い、参加者から好評であった。保育士を目指す学生には、実践を通して地域子育て支援活動を学ぶ貴重な機会となった。また、大学コンソーシアムひょうご主催「キッズフェスティバル」に、動画でクイズを配信する形で参加したり、2020 年度は中止した「海星☆音楽フェスティバル」を、学生が編集した動画配信と会場での生演奏のハイブリッド形式で実施する等、ICT 技術を駆使して授業での学びを発表することができた。

5. 就職支援、就職内定状況等

① 1～4 年次の就職支援

1 年次必修の共通科目「キャリアデザイン入門」において、将来の進路について考えた。2 年次必修の共通科目「海星学Ⅰ・Ⅱ」では、外部講師及び学科教員・キャリアセンター職員による講義、「卒業生によるピアサポート」の時間を設け、希望する将来の実現に必要な

力を養った。3 年次生は、正課外プログラムとして「3 年次生対象就職サポートプログラム」で実践的なスキルを習得し、4 年次生は、キャリアセンター員による個別相談により、進路の決定をした。

② 教職課程、教員採用試験対策講座

公立学校教員採用試験対策講座及び幼保就職対策講座を開催し、筆記試験・実技試験・面接試験に向けて集団指導・個別指導を行っている。

③ 就職内定状況

2021 年度の卒業者数は、85 名（英語観光学科 52、心理こども学科 33）で、そのうち就職希望者数は 77 名（英語観光学科 49、心理こども学科 28）、就職者数は 76 名（英語観光学科 48、心理こども学科 28）となり、2022 年 5 月 1 日現在の 2021 年度就職率（就職者数/就職希望者数）は 98.7%（英語観光学科 98.0、心理こども学科 100）、両学科の実就職率（就職者数/卒業者数）は 89.4%である。2020 年度就職率は、大学計 97.3%、両学科の実就職率（就職者数/卒業者数）は 87.8%であり、大企業就職率は 3.2%減じた（2021 年度 32.9%、2020 年度 36.1%）ものの、就職実績としてはコロナ禍前と比して微増である。

6. 学生支援

学修・生活面で困りごとをもつ学生のサポートを充実させるために、2021 年度に 2 つの点で体制を整えた。1 つ目は「学生サポート委員会」の発足である。学生部・教務部・保健室・学生相談室がチームで学生支援体制を行うべく、必要な学生の情報を共有し、部署や支援にあたる教職員が共通意識をもって学生に対して支援の提供ができるよう、適宜集まって検討している。2 つ目は、2018 年に開設したサポートルーム・ステラの再整備である。これまでは心理学教員及び養護教諭が支援を行ってきたが、大学組織としてより支援を充実させるため、学生部が運営をすることとし、カウンセリングを行う「学生相談室 Maris」に対し、学修面での支援をする「学修支援室 Stella」と名称を改め、支援の機能を明確にした。

7. 生涯教育、地域交流・貢献等

① 「キッズイングリッシュ」関連活動

「キッズイングリッシュ」の担当教員及び履修生が協定校の神戸市立美野丘小学校で春学期及び秋学期に 2 回ずつ 1・2 年生のクラスの英語の出前授業を行った。また、キッズイングリッシュクラブの学生が神戸市内の公民館での児童英語教室出張授業（12 回）を行った。

② クラブ活動ほか学生による活動

フラ&タヒチアンダンス Pua Nani が「第 11 回灘区総合芸術祭」に参加したほか、イラスト部はリモートで六甲病院アートセラピーボランティア活動、バレー部が神戸市立小学校

でのバレーボール指導、アナウンス研究会が地域コミュニティーラジオ FMM00V に参加するなどして、地域との交流や社会貢献を行った。サンタ募金の配布のため、ボランティア学生 7 名が灘区内の 3 か所の児童養護施設を訪問し、ささやかな贈り物を届けた。2020 年度から実施している活動であるが、子どもたちにも施設職員の方々にもとても喜ばれている。

③ 教員による講演・研修会等

神戸市との大学連携講座である「神戸市老眼大学」「こうべ生涯学習カレッジ」を担当し、延べ約 2,000 名の来場があった。また、大学教育の地域還元という位置づけで、公開講座と生涯学習講座を開催した。（生涯学習講座の前半は中止）外部依頼の講演としては、神戸市（神戸市教育委員会 2 件・神戸文学館 1 件）、宝塚市（公民館 1 件・8 回）、芦屋市（公民館 1 件）などを本学教員が担当し、延べ約 1,000 名の来場者があった。

8. グローバル人材育成に向けた取組

すべての海外留学プログラムは中止とせざるを得なかったため、日本時間に合わせてプログラムを実施しているサイモン・フレイザー大学（カナダ）、サンフランシスコ州立大学（アメリカ）でのオンラインプログラムを実施し、3 名の学生が参加した。オンラインの留学でも、語学・異文化理解両面において学習効果は十分に得られることが、参加者の事後レポートから分かる。特にリスニング力は TOEIC で 25 点上昇が見られた。海外渡航による留学でのリアルな異文化体験ができないことから、オンライン留学の参加者は少ないが、費用が通常の留学の 1/3 から 1/4 に抑えられることから、今後も実際の留学と組み合わせ、より多くの学生がグローバルな視点を養う機会を得られるように工夫したい。

2022 年度春学期留学に向けて参加学生の募集を行い、4 月末に 4 名がカナダに出発した。

9. キリスト教関連行事

2021 年度 5 月のキリスト教行事日は緊急事態宣言発出中と重なったため、形式を変更して実施した。1 年次及び 3 年次生は、DVD『マザー・テレサの遺言』を視聴してマザー・テレサの生き方について学び、ワークシートを用いて自分の人生における役割について考えた。2 年次生は、前年度に挙行できなかった入学式の代わりとなる「入学感謝ミサ」として入学をお祝いし、学生生活に対する神の加護を祈る機会とした。10 月に例年宿泊研修を行う 4 年次生は、学科ごとに 1 日研修の形で、布引ハーブ園 森のホールにて「与えられたいのちをいきる」というテーマで講演を聞き、コロナによる喪失体験とその影響と対策について考えた。12 月のクリスマス・ミサは、1 年次生を学科ごとに分けて実施し、クリスマスキャロルの代わりとして、ミサの前に音楽部・コールスステラマリスによる音楽演奏の時間を設けた。教職員のためのクリスマスの集いも、短時間ではあったが、教職員有志による演奏を聴く温かい時間となった。

10. 大学改革関連

① 自己点検・評価における外部評価

2022 年 3 月 16 日に、神戸市灘区長 廣瀬万希子氏、学校法人大谷学園 ひよどり台幼稚園 主管 毛利憲士氏、近畿日本ツーリスト 執行役員／西日本支社 副支社長 松本知氏を外部評価委員として本学に招き、大学改革運営会議構成員が出席して外部評価委員会を開催した。委員会では、「2021 年度 自己点検・評価報告書」に基づき、各委員会等の自己点検・評価の取組について報告を行った後、外部評価委員から意見等の提供を受けた。

② FD・SD の取組

9 月 1 日に教職員対象のハラスメント防止研修会及び合理的配慮研修会を実施した。ハラスメント防止研修講師は、社会保険労務士法人 和（なごみ）畑田豊晴氏、合理的配慮研修講師は、兵庫県教育委員会事務局 特別支援教育課 主任指導主事 井上博之氏である。特に後者については、近年配慮を希望する学生が増えてきていることから、とても参考になるテーマだった。合理的配慮の概要についての理解の次は、大学として各学生への対応をマニュアル化できるように進めていきたい。

③ 教員評価

英語観光学科及び心理こども学科の教員は、それぞれの学科主任宛に、共通科目の教員は、共通科目主任宛にそれぞれ人事考課表（担当職務の具体的遂行結果及びそれに対する本人評価について記載したもの）を提出した。その後、学科主任及び共通科目主任が、所属教員と個別面談を実施し、当該教員に対して下した評価を学長に提出した。学長は各主任との面談の後、学長の評価結果を理事長に提出する。

1 1. 教員の研究活動

『神戸海星女子学院大学研究紀要』第 60 号及び『神戸海星女子学院大学教育研究紀要』第 5 号を 2022 年 2 月に発行した。また、『言語文化研究』第 6 号（神戸海星女子学院大学言語文化研究所）を 3 月に発行した。

1 2. 施設工事関係

2 号館設備を図書館棟及び本館に移管するための工事の一環として、本館地階に 2 部屋あるロッカー室を 1 つにまとめる作業を完了した。2022 年 6 月から 9 月にかけて、図書館棟設備の利用に制限がある予定である。

（２）神戸海星女子学院中学校・高等学校

１．中学校生徒募集と広報活動について

① 中学校生徒募集

２０２２年度入試の出願者数はＡ日程 147 名、Ｂ日程 129 名、受験者数はそれぞれ 135 名、122 名であった（出願者数はＡ日程 11 人減、Ｂ日程 13 人増、受験者数はそれぞれ 6 名減、14 人増）。受験者数で見ると、昨年比でＡ日程は約 6 % 減、Ｂ日程は約 13 % 増であった。今年度も新型コロナウイルスの感染対策（救済措置）の一環として、Ａ日程のみ追試験を用意したが、受験希望者はいなかった。

② 大学入試結果

２０２２年度の国公立大学合格者数は 63 名（現役 42 名）で、昨年の 53 名より総数としては 10 名増加した。特筆すべきは、国公立大学医学部医学科へ計 12 名（現役 7 名）が合格した点で、この数は全国女子校の中で上位に入る好成績である。私立大学の医学部医学科も 26 名（現役 14 名）と健闘している。

③ 広報活動

新型コロナウイルスの感染拡大のため、教員による塾訪問を前年に引き続き 2021 年度も中止、パンフレットやポスター、リーフレットはすべて塾に郵送した。塾への直接的な広報活動は大きく制限されることになった。校外の相談会、私学連合会主催、業者主催の合同説明会、塾主催の説明会に関しては、一部中止されたものの、多くが様々な規制の中実施、本校も可能な範囲で参加した。校内では学院祭が非公開での開催となったため、受験希望者に見学の機会を提供できなかった（体育祭も中止のため同様）。オープンスクールは開催したが、在校生との接触・交流を回避する「感染対策型縮小」バージョンでの実施となった。学校説明会に関しては、概ね従来通りの形態で実施できたが、昨年同様 2 回共予約制にして出席者数を制限した。外部メディアを利用した広報は、例年通り受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。昨今、広報・宣伝の媒体がネットにシフトしている傾向に鑑み、新聞広告への掲載を減らし、読売オンライン等ネット媒体を活用した広報活動に注力した。

２．学校納付金等について

授業料に関しては、2021 年度より中 1 から高 3 まで一律 66 万円となった。教材費預かり金に関しては、2021 年度卒業生については多少の不足金が生じたが、その不足分は学校負担とした。積立金に関しては、余剰金が発生したため、保護者に事前通知の上返金した。

3. 教育活動について

① 教育課程

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」と、「生徒の希望する進路の実現」を2つの柱として教育課程を編成している。中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、中学3年生からは、高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中学3年の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

② 数学、英語での習熟度別授業・少人数授業の実施と成績不振者対策

中2にネイティブ教員による英会話の授業を開設した。1クラスを均等3分割、生徒11～12名に対して一人のネイティブ教員という少人数授業であり、外国語学習にとってかなり理想的な環境を創出できた。中3数学においては習熟度に応じた3クラス編成（標準2クラス・発展1クラス）、中3英語は少人数授業の更なる充実を図るべく、均等3分割編成を継続した。高1と高2の英語については、標準・発展の習熟度別2クラス編成、高2数学に関しては、理系と文系に分けた上で、それぞれ標準・発展に2分割し、より一層生徒個人の学力に見合った効果的な授業を実施した。また中学生に関しては、定期考査ごとに、成績不振者に対して英語と数学の補習を行い、低学力生徒の危機意識を高めると共に、基礎学力の定着を図った。

③ 学級編成について

各学年のクラス数については、2011年度に中学校4クラス化が完成以降、変更はしていない。設備、教員等諸事情を考え、2021年度も中学4クラス、高校3クラスの編成とした。

④ 特別活動、宿泊行事

新型コロナウイルスの感染拡大のため、多くの行事・活動が、中止・延期等の変更を余儀なくされた。

【遠足・合宿】 中1：遠足「イングランドの丘」（1学期から2学期10月へ延期）

中2：合宿「蒜山高原」（2学期に延期、泊数を1泊減じ、1泊2日で実施）

中3：異文化理解合宿

高1：大塚国際美術館見学（次年度5月へ延期）

【宗教行事】 高3：「静修合宿（ユニトピア篠山）」（1泊2日から日帰り2日間へ変更）

【静修】 中1・中2：予定通り実施。

中3：オンライン。学年閉鎖中につき学校から生徒宅へ配信。ミサは中止。

高Ⅰ・高Ⅱ：オンライン。午後高Ⅱのみミサを実施。

【福祉活動】 「ワークキャンプ」、「青陽東養護学校との交流学习」「しあわせの村福祉体

験学習」はすべて中止。

⑤ 体育祭 緊急事態宣言発令期間中につき実施を断念（中止）。

⑥ 高Ⅱ修学旅行

新型コロナウイルスの感染拡大のため、フランスへの旅行は断念、行き先を国内（長崎・熊本方面）へ変更した上で、宿泊数を減らして（3泊4日）実施した。感染対策として出発前に生徒・引率教員すべてにPCR検査を行い、結果として全員が陰性、安心して計画を実行できた。

⑦ 海外研修

オーストラリアとの交換プログラムについては、セント・クレア校からの受け入れの年であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となった。「イギリス語学研修」も同じく中止された。

⑧ ICT教育

2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に一挙に進んだオンライン配信が、2021年度さらに一層進化を遂げた。Google社の『Google Workspace（旧G suite for education）』を使用した各授業での教材提示及び情報提供は浸透・定着し、Meet機能によるリアルタイムでの授業配信や各式典（始業式・終業式・入学式・卒業式等）の配信など、その使用領域はかなりの広がりを見せた。生徒に貸与（中1のみ自費購入）しているChromebookの使用頻度も高まり、自宅のみならず学校においても様々な場面で積極的に活用している。また、教員相互での利用率もアップし、朝終礼をはじめ、校務や職員会議等での諸連絡に大いに役立っている。

4. 学校評価について

（自己評価）

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した（資料1）。評価項目は昨年と同じである。各項目の評価結果には若干の変動はあるが、全体として顕著な変化は見られなかった。

（資料1） 2021年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

（1）評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

Ⅱ 評価結果

評価項目	評価
A 教科指導	
①総合的に年度当初の目標が達成されているか	3. 9
②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定されているか	4. 0
③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	4. 1
④目標とした内容が定着しているか	3. 8
⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との連携がとれているか	4. 0
B 校務分掌	
①担当業務が適切に処理されているか	4. 1
②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	4. 0
C 担任業務	
①生徒とのコミュニケーションが取れているか	4. 0
②保護者との連携がとれているか	4. 0
③学年内の連携がとれているか	4. 2
⑤教科担任との連絡がとれているか	3. 9

（３）神戸海星女子学院小学校

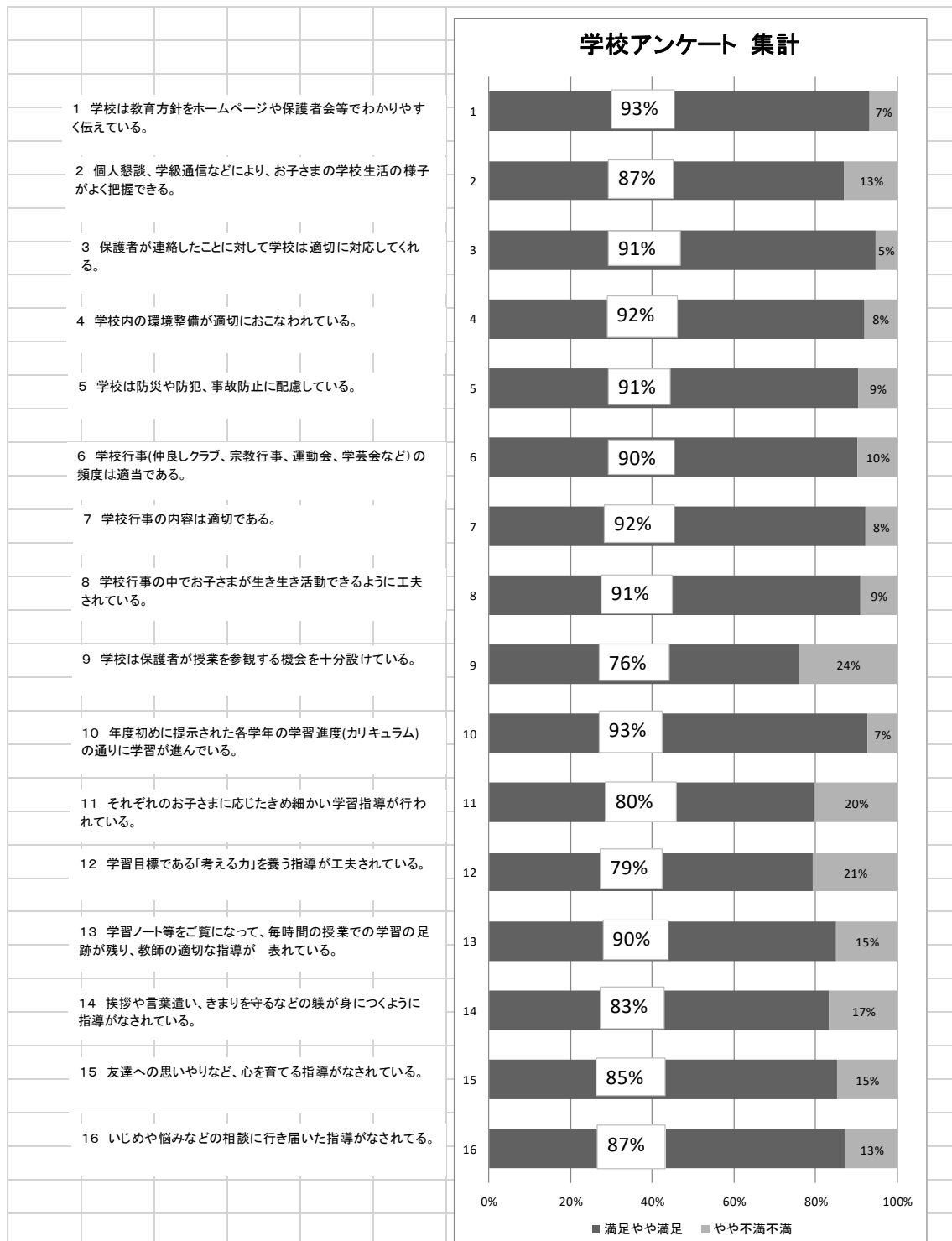
1. 小学校広報活動と児童募集について

幼児教室４か所（奨学社、ぷらいまりー、くま教育、チャイルドアイズ）と海星マリア幼稚園を年間２回訪問し、２０２２年度入試に向けて海星小学校の特色や一貫教育について説明を行った。入試後は、２０２２年度入試問題や内容についての解説や２０２３年度入試に向けて説明を行った。また、１０月に１２の幼児教室を回り、入試報告と転入募集についての説明も行った。１２月に、第９回の「兵庫県私立小学校フェア」が兵庫県の私学１１校が集まり、生田神社会館で行われた。海星の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数２クラス制のよさなどの説明を行った。本校ブースへの訪問者は過去最高であった。２０２２年２月に予定していた「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」は、新型コロナウイルスの影響で中止になった。受験希望者に対して、学校での説明会を７月と１０月の２回行った。第１回目の７月は、年長の保護者を対象に説明会を行った。第２回目の１０月は、年中の保護者を対象に学校説明を行った。２回ともコロナ禍であったが、多くの参加者があった。２０年度より小学校機関紙「かいせい」を、写真を多く掲載したカラー版に改定し、広報ツールとしても活用するようにした。その他の広報活動としては、１０月の説明会参加者や図工展登録者、幼児教室に、クリスマスカードや図工展の写真、本校の機関紙「かいせい」を郵送し、学校生活の様子を毎月１回を目途に伝えるように努めた。２０２２年入試は、本校では４８名の募集に対し６８名の志願者があり、５４名の合格者を出し、５４名が手続きをした。１月には転入試験を行い、新２年２名、新４年２名が受験し、新２年１名、新４年２名を合格とした。２０２２年度の児童数は、１年生５４名、２年生５０名、３年生５１名、４年生５０名、５年生５１名、６年生４８名、計３０４名となった。２２年度は、学則定員５０名×６学年＝３００名を確保できた。

2. 学校評価について

毎年２月に、保護者に対して無記名で学校評価に対するアンケートを実施している。２４０名の保護者から回答をいただいた。（回収率８７％）（資料１） ２０２１年度は、「校内の環境整備」や「悩みの相談に対する指導」などでよい評価をいただいたが、「それぞれの子どもに応じたきめ細かい学習指導」や「考える力を養う指導」については、まだ十分に評価されていない。放課後演習を見直し、子ども一人一人の学力を伸ばすための教員研修を充実させていく。また、新型コロナウイルスの影響で授業参観ができなかったことについてご意見をいただいた。オンライン参観など ICT 担当教員で実施できるように検討していく。生活面については、「あいさつや言葉遣い、きまりを守るなどの躰」について、登下校のマナーや言葉遣いなどしっかりできるように、さらに指導をしていく。保護者の記述式による意見は、海星の教育を考える良い機会になっている。これを受け、職員間での話し合いを、春休み中に実施し、全教員で共有した上で、今後の教育活動に活かしたい。

(資料1) 2021年度 学校アンケート



次に、教員による自己評価についてである。年度末に学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。結果については、職員会議で教員に周知を図った。今年度は、Aの学習指導について自己評価

が低くなっており、来年度に向けて学習内容を定着させる指導を進めていきたい。Cの担任業務については、専科教員との連携など、自己評価が高くなっているので、来年度もさらに連携を強くしていきたい。

(資料2) 2021年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

(1) 評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核分野と捉え、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

評価項目	評価
A 学習指導・生活指導	
総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3. 5
個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、適切な指導をしているか。	3. 9
教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	3. 9
設定した学習進度（カリキュラム）が保たれているか。	4. 0
個々の児童の学習内容が定着しているか。	4. 0
目標とした学習内容が定着しているか。	3. 5
同一教科の前後する学年における学習内容について、担当者との連携が取れているか。	3. 8
基本的なしつけやルールの指導に努めているか。	3. 9
豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	3. 8
授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3. 9
B 校務分掌	
分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	4. 1
関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。	3. 8
C 担任業務	
保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、信頼関係を築いているか。	3. 8
学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。	3. 9
専科教員との連携が取れているか。	4. 1

3. 教育について

① 特色ある教育

(ア) 宗教教育

全校生毎週 1 時間の宗教の時間や、週 1 回（金）の礼拝朝礼、毎日の朝礼終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「創立記念ミサ」「クリスマス会」「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

(イ) 外国語（英語）教育

2021 年度は、全校生週に 3 時間、うち 2 時間は教員 3 人体制で英語の授業を行った。ネイティブ教員と英語専科が主となり授業を展開、担任は児童一人一人に寄り添って支援を行った。正しく発音できているのか、正しい綴りで書けているのか、児童の理解度を図るためのチェック体制を充実させている。

(ウ) 福祉教育

毎年 5 年生が訪問している老人ホーム（大池サンホーム）の訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止にした。

(エ) 「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間 11 時間実施した。

- | | |
|-----------------|------|
| ・ 1 年生歓迎会 | 1 時間 |
| （春の遠足 中止） | |
| （小運動会 中止） | |
| ・ 水族館づくり | 2 時間 |
| ・ 秋の遠足（王子動物園） | 4 時間 |
| ・ 校外清掃 | 2 時間 |
| ・ 百人一首 | 2 時間 |
| （6 年生とのお別れ会 中止） | |

② 今年度の取り組み

（ア）4 月と 7 月に、保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくために学年保護者会をオンラインで行った。授業参観は、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。12 月には対面で学年保護者会を行い、2 月にはオンラインで学年保護者会を行

った。

(イ) 学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、月に2回火曜日の放課後に教員の学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告し共有した。

(ウ) 学年ごとの宿泊を伴う行事

学年	合宿など	場所	体験内容	今年度
2	学校活動	小学校校舎	家族を離れての共同生活 王子動物園、学校のプール	日 帰 り 2 日間
3	校外活動	神戸市立自然の家（六甲）	カヌー、アーチェリー、ネイチャーハイクなど、自然の中での活動	日帰り 2 日間
4	校外活動	神戸市立自然の家（六甲）	カヌー、アーチェリー、ネイチャーハイクなど、自然の中での活動	日帰り 2 日間
5	スキー合宿	鉢伏高原	スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり	中止
	校外活動	奈良県明日香村	飛鳥寺、石舞台古墳など 明日香村を散策	中止
6	修学旅行	沖縄方面	伊江島民泊（異文化体験） 平和学習・沖縄の歴史	中止
	校外学習	淡路島	ニジゲンノモリ 淡路島牧場	日帰り

（４）神戸海星女子学院マリア幼稚園

１．園児の状況について

① 園児数

2021 年 4 月の園児数は 5 歳児 95 名、4 歳児 97 名、3 歳児 98 名、合計 290 名。満 3 歳児 31 名、編入児を含め 324 名となった。

② つくし組（週二日 1 年間通う二歳児クラス）

25 名入会。内訳は弟妹卒園生 13 名、外部は 37 名であった。（50 名応募）。

③ 選考基準

外部入園については、幼稚園での生活を想定して、評価規準を決め、面接時の観察を通して決定した。また、つくし、弟妹入園については保護者の理解はあるため、「入園にあたって」のレポートを提出し、決定した。

２．幼稚園を取り巻く社会環境

① 「子ども子育て支援新制度」

2015 年 4 月より「子ども子育て支援新制度」が施行された。新制度園として「施設給付」を受ける『幼保連携型認定こども園』、『幼稚園型認定こども園』、『幼稚園』を選ぶか、それとも「施設型給付」を受けないで従来通りの私学助成を受ける『幼稚園』のままにするのかを選択することになった。マリア幼稚園は従来通り『私学助成の幼稚園』を選んでいる。全国では徐々に新制度園に移行していつている状況である。今後、園児のさらなる減少や子どもを持つ親の就労などのことを鑑みると、熟慮すべき課題である。

② 幼児教育無償化

2019 年 10 月より 3 歳から 5 歳までのすべての子どもが質の高い幼児教育、保育を受けるために幼児教育無償化制度が実施された。上限が 25700 円である。しかし上乗せ徴収をしている園が多い。その額はそれぞれの園で設定しているので統一性はなく様々ある。マリア幼稚園は年長が 34000 円、年中・年少は 38000 円の保育料となっている。

③ 少子化の進行

少子高齢化が進む中で西宮市の子ども的人数も減少し続けている。近隣の幼稚園でも定員割れの幼稚園が増えてきている。子どもの減少は今後も加速すると思われる。その中で、「選ばれる園」として、マリア幼稚園のよさをいかにアピールするかが重要になってくる。

④ 待機児童

母親の就労支援のために長期休暇中にも預かり保育をする『協力幼稚園』になるようマリア幼稚園も西宮市から求められているため、編入児等を極力受け入れてきた。

⑤ 幼稚園教諭、保育士不足

慢性的な幼稚園教諭不足が多くの園で深刻となっている。幼稚園は担任だけでなく、朝、降園後の預かり保育、配慮すべき幼児の支援加配、2歳児クラスの担任等、様々な人材が必要である。それが大きなネックになっていると感じる。年度末、処遇改善が行われたが、それが教諭不足の歯止めになることは幼稚園の実態として難しいと感じている。

3. 教育活動

① 一年間の流れ

(ア) 1 学期

園生活の基本を学ぶ時期である。室内活動の充実、モンテッソーリ教育の充実を図った。園行事については、②一年間の行事に記している通り、緊急事態宣言、まん延防止重点措置が多くあり、中止、延期を余儀なくされた。そのような中でも、卒園学年であるA組については園での思い出づくりのためにも、デイキャンプは実施した。園実施で制限された形ではあったが充実したものになった。

(イ) 2 学期

スポーツデーではクラスの友だちと一緒に協力して運動を楽しんだ。また、マリア幼稚園のメイン行事「聖劇」ではイエス様のご降誕の劇を通して史実に基づいたキリスト教に触れた。さらに、視野を広げ世界中で困っている人達を紹介し献金をした。聖劇の観覧については感染対策をしっかりと行った上で、保護者にも観覧していただいた。各クラスとても立派な劇ができた。その他、園外保育については、密集や食事中の私語などが避けられないと判断し、中止とした。

(ウ) 3 学期

マリア幼稚園の教育の柱であるモンテッソーリ教育、キリスト教教育の集大成とし、モンテッソーリ教育の原点に戻り、子どもの興味に沿って自己選択活動ができる環境を整えた。キリスト教教育では、年長児と保護者が一緒に「感謝の集い」を行い、これまでの「神様のお話」の時間を振り返り、自分の生まれてきた意味を考えた。そして、子どもの成長、先生、友達との出会い、幼稚園生活を無事に終えることへの感謝の祈りを捧げた。卒園式については例年通りの形で、保護者一名の参加の上実施できた。

② 一年間の行事

- 入園の日 4 月 7 日 ※説明会などのホール開催は中止とした。
- 親子遠足 4 月 21 日 新西宮ヨットハーバー
※コロナ感染拡大の為、中止
- A 組デイキャンプ 6 月 25 日（金）園内で実施
- スポーツデー 9 月 23 日（祝）園庭で実施
- 秋の遠足 各クラス（甲山、西宮森林公園、北山植物園）
※コロナ感染拡大の為、中止
- 七五三 11 月 4 日 ※コロナ感染拡大の為、中止
- 聖劇 11 月 30 日、12 月 1、2、3 日
- お餅つき 1 月 13 日 ※保護者参加不可とし、内容を縮小して実施
- お別れ遠足 各クラス別 ※コロナ感染拡大の為、中止
- 卒園式 3 月 17 日

※ 2021 年度もコロナウイルス感染症の拡大や不安、さらには、緊急事態宣言、まん延防止重点措置等の発令などがあったため、実施できる行事にかなりの制限があった。

③ ICT 化

幼稚園のネットツールとして、以下の「ホームページ」「かんたんメール」「おうちえん」3 手段があり用途、内容によって使い分けた。

（ア）ホームページ

- ・ 外部の方用なので幼稚園紹介が中心。
- ・ 在園生にも学期ごとの日々の様子も伝える。
- ・ 父母の会の手紙もパスをかけて掲載している。

（イ）かんたんメール

- ・ 在園生の保護者と幼稚園が直接一人ひとりとコンタクトをとることが出来る。
- ・ 欠席、遅刻、早退、お迎えの方法の変更、アフタークラスの利用、課外教室の利用等一人ひとりの連絡を園に伝える。
- ・ 園バスがバス停に到着する時間をメールで伝える。その機能を利用して保護者はお迎えに来ることが出来る。
- ・ 園からの連絡も個人、全体、学年別等適宜送信することができる。

（ウ）動画配信サイト「おうちえん」

- ・ 2020 年コロナ禍緊急事態宣言中 5 月より利用を開始。パスをかけて在園生だけが見ることが出来る動画配信サイトである。
- ・ 現在 50 ページの「在園のしおり」（幼稚園のルール）を、「おうちえん」を利用しスマ

ホでも見る事が出来るようにする。

- ・月間予定表なども「おうちえん」に掲載していつでも見る事が出来るようにする。
- ・幼稚園の行事や日常生活を状況に応じて動画配信サイト「おうちえん」を活用しネットで配信していく。保育参観の簡素化になる。

(エ) その他

卒園式は業者によるライブ配信した。

(オ) 研修方法

2021 年度の京都深草モンテッソーリ教師養成コースにおいてもマリア幼稚園が拠点園となりオンライン授業が始まった。学生を受け入れる会場となるので、ホール、保育室のネット環境を整えようと計画をしていたが、現在の状況で必要十分と判断した。ただ、Wi-Fi が届きにくい教室があるため、携帯モバイルの契約を行った。

4. 施設設備

① 防犯カメラの整備

既存の 3 台の防犯アナログカメラが破損したためデジタルカメラに付け替え、もう一度全体を整備した。

② スポーツデーのために音響設備を外部委託し、よい音響環境で実施できた。

③ 西宮市の緑化計画事業に参画し、専門業者のメンテナンスにより、園庭の芝生化を進めてきた。

5. その他

① 子ども子育て支援新制度

引き続き、マリア幼稚園が私学助成園として歩んでいくのか新制度園を選んだ方がいいのかを状況を見て検討をしていく。

② バスのルート変更

バスの乗車人数、交通事情、渋滞状況を検討し、適切なバスルートに変更した。

③ コロナ対策

- ・状況をしっかり判断しながら、保育を行った。子どもたちを預かる場所として安心安全な環境を提供していくとともに子どもの成長を止めることの無いように保育を充実させてきた。

(5) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等
神戸市灘区青谷町	大学本館	6,559 m ²
	大学2号館	2,149 m ²
	大学図書館	4,047 m ²
	中高校舎、講堂	10,627 m ²
	中高食堂ロッカー棟	659 m ²
	体育館	1,675 m ²
	小学校校舎	3,316 m ²
西宮市木津山町	幼稚園園舎	1,725 m ²

② 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

2021年度は特にない。